

## 研究主題

# 一人一人が持てる力を発揮するための支援のあり方を探る（3年次）

## 1 研究主題について

### （1）研究の概要

本校の教育目標は「自分から自分でする人間を育てる」である。「自分から自分で」は本校の授業づくり実践の合い言葉にもなっている。本校ではこれまで児童生徒の主体性を大切にしながら授業づくりを行ってきた。その授業づくりの基本としてきたものが「できる状況づくり<sup>\*1</sup>」である。「できる状況づくり」が整えば、児童生徒は「自分から自分で」活動に取り組み、主体性を発揮することは、前研究の『児童生徒の主体性を育む「できる状況づくり」の追究』の実践はもとより、本校の過去の実践においても確認できた。

本研究では、児童生徒一人一人が持っている力を最大限発揮し、これまで以上に「自分から自分で」主体的に活動に取り組む姿を目指して研究主題を設定した。

児童生徒の実態を「持てる力」をキーワードに捉え、一人一人に合った「できる状況づくり」を徹底し、評価を行い、手立てや授業づくりにフィードバックする一連の授業づくりのサイクルを確かな形にし、実践することで、児童生徒が「持てる力」を発揮して活動に取り組む姿に近づけることができるのではないかと考えた。

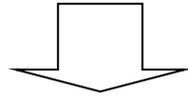
児童生徒が「持てる力を発揮する」ためには、力を発揮できる環境が整っていることが不可欠である。これまで本校が実践を重ねてきた「できる状況づくり」を基本とした授業づくりを更に深化させる研究の取組である。

### （2）研究主題の設定

本研究主題を設定するにあたっては、昨今の特別支援教育の動向や前研究の課題を踏まえた。中央教育審議会のインクルーシブ教育システム構築の推進に関する報告の中で「障害のある子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加することができるよう、(中略) 障害のある子どもの教育の充実を図ることが重要である。」ことが述べられた。

本校において、児童生徒の「能力や可能性を最大限に伸ばし」、「教育の充実を図る」ための取組の一つとして、一人一人の「持てる力」に着目した研究実践をすることを考えた。前研究からの課題に、適切な児童生徒の実態把握と、授業後の的確な評価があげられていたことを踏まえ、「持てる力」をキーワードに児童生徒の能力や可能性を把握し適切な支援を導き出すことや、授業後の姿や教師の支援を評価する取組をすることにした。

<p><b>本校の教育目標</b> 自分から自分でする人間を育てる</p> <p><b>本校の教育実践</b> これまで本校が取り組んできた 主体性を大切にした授業づくり</p>	<p><b>特別支援教育の動向</b> 「障害のある子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばし、(中略)、障害のある子どもの教育の充実を図る」</p>	<p><b>前研究の成果と課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「できる状況づくり」を基本とした授業づくり</li> <li>・よりきめ細かい実態把握</li> <li>・評価方法の検討</li> </ul>
---	---	--



**研究主題**

一人一人が持てる力を発揮するための支援のあり方を探る

(3) 「持てる力を発揮する」の捉えについて

本研究では、「持っている力」を現時点で「備わっている力」、これまで「培ってきた力」とした上で、「**持てる力**」を「備わっている力」「培ってきた力」に加えて「将来的に持つことが予想され、または期待される力」とし、また「**発揮する**」とは能力を最大限働かせたり、生かしたりすることとした。

このことを踏まえ、「持てる力を発揮する」について、以下のように捉える。

- ・見たり、聞いたり、手足を動かしたりといった、「持っている力」を最大限働かせたり、生かしたりすること。
- ・将来的に「伸びが期待できる力」「伸びる可能性がある力」を、児童生徒自らが伸ばそうとすること。
- ・「絵を描くのが好き」「機械を操作することに興味がある」といった本人の興味・関心に根ざした力を発揮すること
- ・「走るのが速い」とか「細かい作業が得意」といった、本人あるいは他者から見て、長所だと思ったり、感じたりしている力を発揮すること
- ・「〇〇に挑戦してみたい」「〇〇ならやる気がする」といった本人の思いや願いが原動力となり、力を発揮すること。

児童生徒の「持てる力」を把握する際には、以上の5つの観点を基に行う。

## 2 研究のねらい

「できる状況づくり」のポイント\*2を基本に「授業づくりのプロセス\*3」に沿った授業づくりを行う。その中で、「持てる力」をキーワードに、児童生徒の実態や活動の様子をよりきめ細やかに把握、評価し、より良い支援のあり方を探ることを通して、一人一人が持てる力を発揮して活動に取り組む姿を目指す。

## 3 昨年度（2年次目）の研究の取組について

昨年度、研究の方法として大きく次の2つに取り組んだ。

（方法1）授業研究会の実施による、授業づくりの実践の検討

（方法2）授業研究会や研修会等による、授業づくりの実践の考え方等の検討

方法1として校内授業研究会および公開研究発表会を実施し、各部の研究実践について校内外から意見をもらいよりよい実践を目指した。また、方法2として研究実践を進めながら「持てる力」の把握や児童生徒の姿の評価のあり方、考え方を検討した。

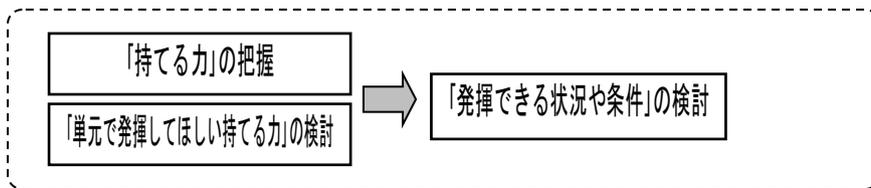
具体的な取組としては次の4つに取り組んだ。

- ①どの部でも全ての児童生徒の「持てる力」を把握するためのシートを作成し、一人一人の「持てる力」の把握を行った。 P
- ②授業案に児童生徒全員分の「単元で発揮してほしい持てる力」と「持てる力を発揮できる状況や条件」を記載し、それを踏まえて毎時間の授業の「期待する姿（目標）」「手立て」を検討し授業改善を行った。 D
- ③「持てる力」を把握するためのシートと同様、どの部でも「評価」のためのシートを作成し、単元の途中や単元終了後に担当で話し合いを持ち児童生徒の姿と教師の手立てについて評価を行った。 C
- ④毎時間の授業の評価や、単元終了後の評価をシートなどにフィードバックし、次の授業や単元に生かす取組を行った。 A

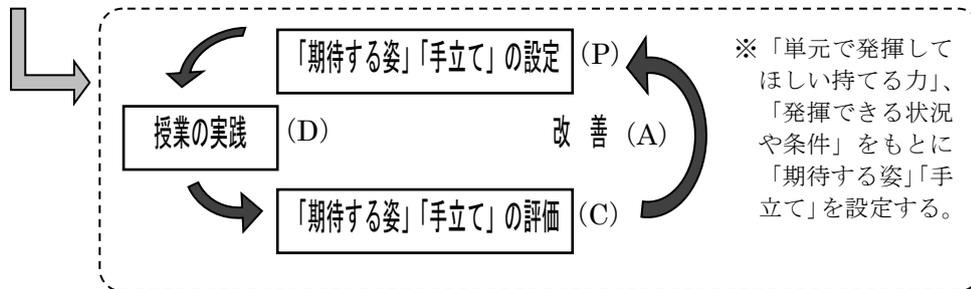


研究で取り組んでいるこの4点は、授業づくりのプロセスのPDCA全てに関わる取組です。

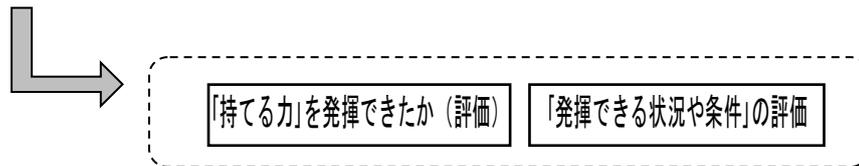
本研究イメージキャラクター「發揮くん」



【単元前】 P



【単元中】 D



【単元中・後】

C A

2年次目の取組を経て、次のような成果と課題があがった。

成果としては次の4点である。

- 各部とも全ての児童生徒について「持てる力」を把握するためのシートを作成し、一人一人の「持てる力」、「持てる力を発揮できる状況や条件」を検討することができた。そのことにより、毎時間の授業においてよりの確な「期待する姿」「手立て」を立て、実践することができた。
- 定期的に（多くの部が毎日）ミーティングを行い、毎時間の「期待する姿」について、また「持てる力を発揮できる状況や条件」「手立て」について検討し、支援の改善を図ることができた。毎日違うグループの児童の支援を話し合ったり、作業班会で記録ノートを作成、活用したり、また生徒の様子動画を視聴してもらうことで意見を集めたりするなど、「複数の目（視点）」で支援を検討するために様々な取組を行った。
- 「持てる力」を把握するためのシートと同様に、どの部でも「評価」のためのシートを全児童生徒分について作成し、客観性と妥当性を高めるための取組を行った。そうしたことにより、日々の授業の改善はもとより、次の単元、他の学習場面に生かせる支援を明確にすることができた。
- どの部においても、各部の児童生徒の発達段階や年齢に応じた「持てる力」の把握や評価の仕方、「期待する姿」「手立て」の検討の仕方など、「授業づくりのプロセス」にあるPDCAサイクルを踏まえた授業作りの形を整えることができた。

課題としては次の3点である。

- 「持てる力」の把握について、「生活全般で発揮してほしい力」と「単元で発揮してほしい力」の整理が十分でなかった。また、「持てる力を発揮する」を定義した5観点が、把握の観点として曖昧だという意見があり、より児童生徒の全体像に即したものとするために、把握の考え方や手続きを再検討する必要がある。

- 「持てる力」の把握のためのシート、「評価」のシートの作成については、全児童生徒分を作成することは作業量が膨大であり、効率化を図る必要があった。既存の取組（具体的には個別の指導計画など）との連携を検討していく必要がある。
- 「持てる力」を発揮できたかどうかの評価のあり方や方法が十分に検討しきれていない現状があった。評価の考え方や方法について更に検討していく必要がある。

授業づくりのPDCAの全てのサイクルで、「持てる力」をキーワードに検討を加え授業改善を図る形がどの部でも整ったと言える。しかしながら、依然「持てる力」の把握と発揮できたかどうかの評価の部分において、さらに検討を加え追究すべき課題がある。

## 4 研究の方法と取組

最終年次の研究として以下の2点に取り組み、まとめを行う。

### (1) 授業研究会の実施による、授業づくりの実践の検討

- ①「できる状況づくり」のポイントを基本に「授業づくりのプロセス」に沿った授業づくりを行い、一人一人に応じた支援を検討する。
- ②児童生徒一人一人の「持てる力」を把握し、「持てる力を発揮できる状況や条件」や「期待する姿」「手立て」、「持てる力が発揮できたかどうか」の評価の検討を行う。その上で、授業研究会時は協議対象児童生徒を設定し、研究協議を行う。

### (2) 授業づくりの実践の考え方等の検証

これまでの2年間、各部の実践で積み上げてきた次の4点の取組を検証する。

- ①「持てる力」の把握のあり方、方法
- ②「持てる力を発揮できる状況や条件」「手立て」を検討する方法
- ③「持てる力」を発揮して取り組んだかどうかの評価のあり方、方法
- ④評価を「持てる力を発揮できる状況や条件」「手立て」等へフィードバックする取組の方法

また、昨年度の取組の成果と課題を踏まえ、以下の点についても取り組む。

- ◆「持てる力を発揮できる状況や条件」「手立て」（＝「できる状況づくり」）の検討を、授業研究会を通して積極的に行い、支援のレベルアップを図る。
- ◆「持てる力」について、職員全体で再度確認、共通理解を図る。
- ◆本研究と個別の指導計画との連携を検討する。
- ◆研究実践の効率化を図る。
- ◆「持てる力」を発揮できたかどうかの評価のあり方、方法を引き続き検討する。

## 5 年次計画

研究は3年次計画とする

1年次 (平成27年度)	2年次 (平成28年度)	3年次 (平成29年度)
授業づくりの実践を行い、より良い支援のあり方を探る。		
対象児童生徒を設定して、「持てる力」の把握と評価の方法などを探る。	児童生徒の「持てる力」の把握と評価の方法、及び発揮できる状況、条件などの有効性を検討する。	児童生徒の「持てる力」の把握と評価の方法、および発揮できる状況や条件などの有効性を確認する。
研修会等による学びを行う。	研修会等による授業づくりの実践の考え方を検討する。	<b>持てる力を発揮するための支援のあり方をまとめる。</b>

※1 「できる状況づくり」について

児童生徒が力を尽くして精一杯活動できる状況、力を尽くすことで首尾よく\*成し遂げることでできる状況をつくること。

児童生徒が、さして努力せずともやれるようにすることではない。その児童生徒なりに力を尽くして精一杯やる姿が見られるようにすることである。力をつくして取り組み、首尾よく\*成し遂げた満足感や成就感の積み重ねが、児童生徒の意欲、自己肯定感を高め、主体的な姿につながるものと考ええる。

\*首尾よく…うまい具合に

※2 「できる状況づくり」のポイントについて

①取り組みたくなる

やりたいと思う

やるのが分かる

状況づくり

- ・「やってみたい」と思える活動内容の工夫
- ・単元のテーマをより意識できるようにする工夫
- ・作業において、個々がめあてを意識できるようにする工夫
- ・テーマに沿って、繰り返しの活動ができるようにする工夫
- ・常に活動に期待感を持ち続けることができる単元構成の工夫

②取り組める

できる

状況づくり

- ・活動しやすい場の配置、環境設定の工夫
- ・活動しやすい遊具、工程や手順、道具や補助具の工夫

③成し遂げられる

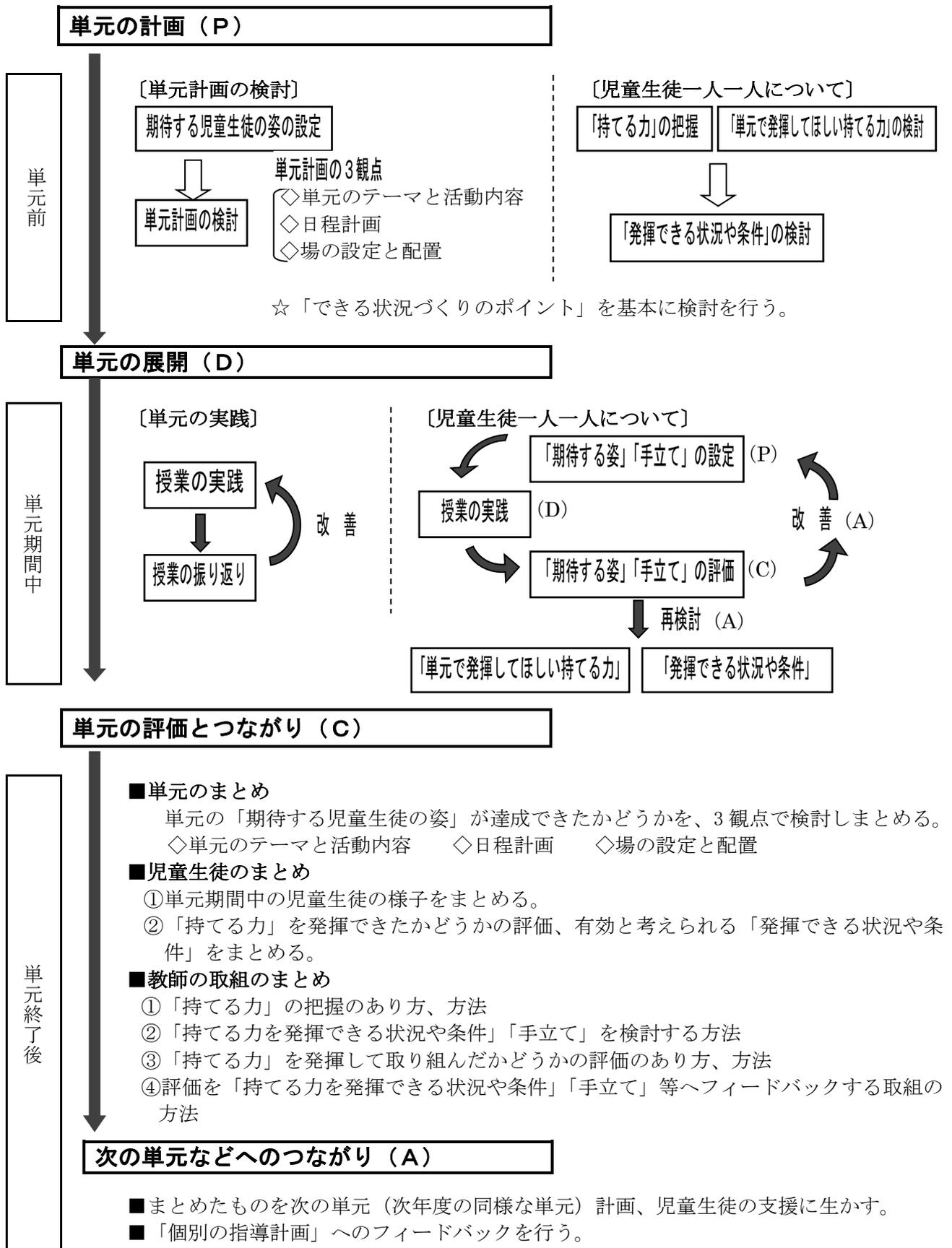
満足感や成就感を得られる

状況づくり

- ・活動の中で、児童生徒の気持ちに適切に応じるための直接的な関わりの工夫
- ・活動後に活動の結果が分かり、「できた」「またやりたい」と思えるような工夫
- ・仲間と共に活動することに、楽しさや喜びを分かち合えるような工夫

### ※3 「授業づくりのプロセス」について

本研究では授業づくりの際には、次に示すプロセスに沿って進めていく。



## 〈 資 料 〉

### ■ 「期待する児童生徒の姿」とは…

児童生徒が主体的に活動する具体的な活動の様子を示すもの。

主体的な姿とは、児童生徒自身が学校生活を過ごす主体者として、次のような姿でそれぞれの授業や学校生活に参加する姿である。

- ・自分の気持ちややりたいことを表現し、活動する姿
- ・自分で活動を選び、進んで活動する姿
- ・取り組んでいることに精一杯力を出して活動している姿
- ・活動に楽しみや喜びを持って、意欲的に活動している姿
- ・自分の役割やめあてが分かり、それに向かって力を発揮して活動する姿

一人一人の期待する姿については、「めあて」として実現できそうなことを具体的に設定していく。その際、教師側の一方的なねらいではなく、児童生徒自身の願いやこれまでの様子、保護者の願いなどを考慮して設定するよう留意する。

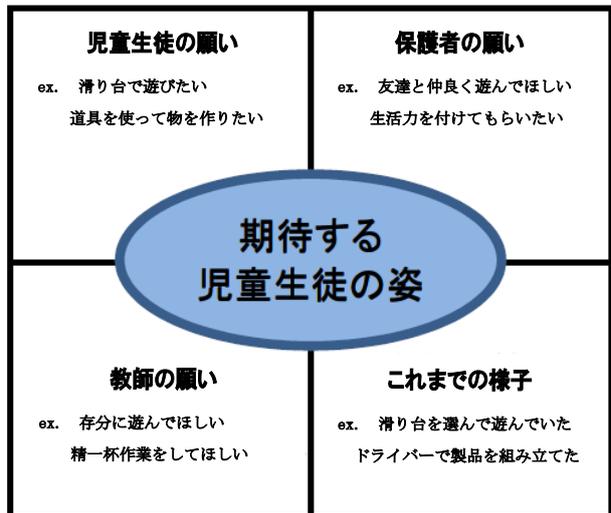


図1 「期待する児童生徒の姿」イメージ

## ■ 単元計画の3観点

単元のテーマと 活動内容	<p>ここでの「テーマ」は、ある一定期間活動する上での目標や課題のこと。「サファリスポーツパークであそぼう」「米養バザーを成功させよう」「クリスマスパーティーをしよう」というように、児童生徒の興味・関心や学校行事との関連、単元時期の季節性等を考慮してテーマを設定する。おおむね単元名と同じになることが多い。</p> <p>単元の活動内容はこのテーマに沿って設定する。どのような活動で単元を構成することが、単元の期待する姿を達成し、持てる力を発揮することになるか検討する。その際、学部合同や学年といった学習集団の単位や、1単位授業の構成についても検討する。</p>
日程計画	単元を構成する活動を、どのように展開するのが適切か検討する。
場の設定と配置	学習集団に合わせた活動場所の設定や、道具や補助具、遊具の位置及び児童生徒、教師の配置などを検討する。

## ■ 個別の「手立て」の6観点

見通しやめあて	児童生徒が、その日の活動や単元の活動に見通しや、目標を持って取り組めるようにすること。
場の配置	児童生徒が活動しやすく、意欲的に取り組めるように、活動の場や環境を整えること。
教材や用具	児童生徒が使用する教材（学習プリントや材料など教材全般）や用具（道具や補助具、遊具）を準備、設置したり、使いやすくしたりすること。
工程や手順	児童生徒が取り組む活動の工程や手順に関すること。
友達や教師との関わり	児童生徒が活動している際の、教師の直接的な声掛けや援助、共に活動する、見守る等の支援に関すること。また、一緒に活動する友達同士の関わりに関すること。
活動の選択	児童生徒が活動を選択したり、決定したりできるようにすること。